

## 三枝 泰證 経歴書

平成 25 年 2 月現在

昭和 37 年 上智大学理工学部・電気電子工学科へ入学し電気工学・一般課程を専攻。

昭和 41 年 同大学を(第 1 期生として)卒業し工学士号を取得。同年秋にドイツのアーヘン工科大学(RWTH Aachen)電気工学部へ入学し一般電気工学を専攻。

昭和 47 年 同工科大学で技術者ディプロイム(Diplom-Ingenieur)を取得。

これに続きアーヘン工科大学の一般電気工学・EDPS 研究所に勤務し、アメリック教授(Prof. Ameling)の助手として学生指導に従事。その傍ら交通信号制御用誘導線輪の動作特性を研究し、この論題による博士論文をアーヘン工大へ提出。

昭和 53 年 アーヘン工科大学助手の契約切れと同時に、ケルンに本部をおく公認の安全検査機関テュフ・ラインランド(TÜV Rheinland)へ技術職員として就職。原子力発電所・建設認可検査の一環として、原子炉安全装置・電子制御回路の機能信頼性に関するワースト・ケース・テスト、システムの理論的解析及び鑑定書の作成に従事したほか、OA 機器や家電等を対象とする GS マーク・テスト及び電気・電子部品を対象とする TÜV マーク・テストで検査業務の経験を積む。この間、同検査機関・東京事務所の開設に際して昭和 54 年秋より 5 ケ月間は同所長を務める。

昭和 58 年 春、提出中の博士論文が認められてアーヘン工科大学の工学博士号(Dr.-Ing.)を取得。その後にテュフを希望退職。

昭和 59 年 日独両国間の技術交流を積極的に支援する目的から「**三枝国際技術コンサルタント事務所**」をドイツのケルン市近郊ベルギッシュ・グラットバッハ(Bergisch Gladbach)市に創立。

昭和 62 年 欧州連合(EU)統一方式の安全及び EMC 規制対策に関する業務を重点的に提供し EU 統一市場における日系企業の事業展開に対する支援を更に強化する方針に従い、事務所の名称を「**三枝基準認証問題相談所**」と改める。

平成 23 年 事務所の所在地を現在のアーヘン(Aachen)市へ移し同一業務を継続。

この間に(旧)日本貿易振興会(JETRO)の各センターを初めとする在欧・公的機関より委託を受けて(欧州の安全規制やエネルギー政策などを主体とする)各種の実態調査を実施したほか、産業界企業からは「EC 認証手続」(CE-Marking)に関する多種・多様な支援業務、並びに特許明細書や安全規格の独文和訳・和文独訳の他、電気・機械・製鉄等の分野における独和・技術通訳を受託。

上記の通り相違ありません **三枝 泰證**